

平成25年度 宇多津町社会福祉協議会事業報告

1. 概況

近年の急速な少子・高齢化の進展や、地域における連帯感の希薄化などに伴い、これまでの福祉制度の枠組みだけでは、対応が難しい問題が残され、様々な形で町民生活に不安を生み出している。町社協においても事業の見直しや再構築が急務となっております。

このような中、社会福祉協議会では、町からの委託事業として「地域福祉推進事業」や「地域支え合い事業」、「ファミリー・サポート・センター事業」に取り組み、各種福祉施策の拡充を図ると共に、介護保険事業、障害者自立支援事業の充実を行い、地域住民の理解と協力を得て、明るい地域福祉を推進し「地域の誰もがその人らしく安心して、安定した生活ができる」福祉社会の実現を目指し、次の7項目の事業を重点に実施した。

- (1) 地域福祉の推進
- (2) 介護保険事業の充実
- (3) 障害者自立支援事業の充実
- (4) ボランティア活動の推進
- (5) 福祉関係団体等活動協力と連携
- (6) 法人運営の強化
- (7) その他福祉活動への協力

2. 事業経過報告

(1) 地域福祉の推進

① ふれあいいきいきサロンの推進

町内の高齢者や障害者等、地域の中で孤立して閉じこもりぎみに暮らしている人たちが、いきいきと元気に暮らせることを目的としてサロン活動を行った団体に共同募金の配分を利用して補助を実施した。

年度毎の箇所数は次のとおりであり、25年度は1箇所増である。

年 度	箇所数
平成21年度	18
平成22年度	19
平成23年度	20
平成24年度	20

平成25年度	21
--------	----

また、年4回のプログラムメニュー研修会を実施し、各サロンがより魅力的な運営ができるよう役立てた。


平成25年5月10日(金) 研修会(～ヨーガで健康いきいきライフ～) 62人

平成25年9月5日(木) 研修会(からだのしくみを知って元気はつらつ!)
48人

平成25年11月12日(火) 研修会(牛乳パックで作る和風ペン立て) 42人

平成26年3月6日(木) 研修会(身近にできる防災対策～いざその時、あなたの備えは大丈夫ですか～) 62人

② 共生型サロンの推進

前年度に引き続き、毎月第1・第3水曜日、地域で暮らす高齢の方も、子育て中の親子も、障がいのある方も、誰でもが自由に集い交流するみんなのサロン「とも  とも」を開設した。

サロンでは、七夕かざり、おもしろ健口体操、おもちゃ遊びや季節行事(流しソーメンと盆踊り、もちつき大会、)等を行い、サロン活動を通して、町内で声をかけ合える関係が深まっている。

【みんなのサロン 参加人数】 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親	14	19	20	13	23	6	20	9	14	4	17	12
子ども	24	18	22	15	51	6	21	9	14	5	21	13
高齢者	22	28	36	33	32	17	26	38	34	16	32	30
V0・スタッフ	13	10	13	10	28	8	24	23	25	5	19	11
合計	73	75	91	71	134	37	91	79	87	30	89	66

※9月及び1月は、月1回のサロン開催であった。

③ 地域支え合い推進

地域での支え合いを推進するため、新たにひとり暮らしになった高齢者(65歳以上)や高齢者のみになった世帯に24年度に引き続き、救急対策として、「救急医療情報キット」を配布した。配布については、民生委員児童委員の協力を得て実施した。

④ 各種相談事業の実施

民生児童委員会、弁護士及び身体障害者相談員の協力を得ながら次の6種類

の相談事業を実施した。

相談の種類	相談員	相談日	相談実績
一般相談	民生児童委員	毎週火曜日	1件
弁護士相談	安西弁護士	2カ月に1回	32件
身体障害者相談	県身体障害者相談員	第3金曜日	0件
介護相談	訪問介護員（ヘルパー）	月曜日～金曜日	66件
ボランティア相談	ボランティアコーディネーター	月曜日～金曜日	3件
電話相談	社協事務局	月曜日～金曜日	58件

相談件数は、昨年に比べて216件から160件へと減少となる。原因としてはボランティア相談の件数が減少したため。

⑤ 生活福祉資金の効果的運用

県社協の委託事業として、生活福祉資金の貸し付け事業を実施した。

新規借入件数は、26件から9件に減少しており、特に生活保護を申請し、受給できるまでの間を支援する等の緊急小口資金が25件から7件と大幅に減少している。資金ごとの貸し出し状況は次のとおりである。

〈生活福祉資金貸付事業〉

借入資金の種類	年度末件数	25年度中 新規借入件数	24年度中 新規借入件数
総合支援資金	20件	1件	0件
緊急小口資金	14件	7件	25件
臨時特例つなぎ資金	0件	0件	0件
教育支援資金	3件	1件	0件
福祉資金	18件	0件	1件
不動産担保型生活資金	0件	0件	0件
旧資金	0件	0件	0件
計	55件	9件	26件

⑥ 日常生活自立支援事業の実施

県社協の委託事業として、高齢者や知的・精神障害者で判断能力に不安がある人を対象に金銭管理・福祉サービスの手伝いを行う日常生活自立支援事業を実施した。年度ごとの利用者状況は次のとおりである。

年 度	高齢者	知的障害	精神障害	その他	計
平成 22 年度	6	1	5	0	12
平成 23 年度	6	1	8	0	15
平成 24 年度	9	1	11	0	21
平成 25 年度	10	1	11	0	22

利用者は、昨年と比べ高齢者が増加している。

本町では、高齢者の認知症や身内からの金銭詐取があるなど、複合的な問題を抱えるケースも多く、関係機関との連携が重要になってきている。

⑦ 高齢者福祉サービス事業の充実

在宅の高齢者及び障害者の日常生活や自立に向けた取り組みを支援するために次の事業を実施した。

区 分	老人給食サービス事業	車椅子貸出事業	公衆浴場サービス	うたんぐら
平成 21 年度	4,904 食 (130 名)	38 名	509 名	1 名
平成 22 年度	5,067 食 (120 名)	42 名	101 名	5 名
平成 23 年度	4,936 食 (120 名)	31 名	1 名	4 名
平成 24 年度	4,870 食 (120 名)	29 名		3 名
平成 25 年度	4,785 食 (116 名)	41 名		3 名
備 考	毎週水曜日配食 (月 4 回)			毎週 3 回 月・水・金

〈高齢者見舞金事業対象者〉

区 分	一人暮らし老人 (80 歳 以上)	寝たきり者
平成 21 年度	122 名	1 名
平成 22 年度	134 名	1 名
平成 23 年度	142 名	1 名
平成 24 年度	144 名	1 名
平成 25 年度	149 名	1 名

老人給食サービスについては、配食していただくボランティアの募集など、当日の配食に支障のないように努めた。車椅子の貸し出しについては、長期の貸し出しから、本来の利用目的である、短期の利用にシフトしている。

また、共同募金の配分金により、高齢者見舞金配布事業を実施し、80 歳以

上の一人暮らし高齢者に対し、3千円を民生児童委員の協力により配布した。

⑧ ファミリー・サポート・センター事業

地域の方が会員となって、一時的な子育てを助け合う有償ボランティア組織。

・平成25年度登録会員数、活動件数、援助活動内容と件数の内訳

登録会員数 (平成25年4月～ 平成26年3月末)	おねがい会員	124名	合 計 <u>227名</u>
	まかせて会員	79名	
	どっちも会員	24名	
活動実績 (平成25年4月～ 平成26年3月末)	援助活動件数の内訳		活動件数
	① 塾への送迎		31件
	② 放課後児童クラブへの送迎とその後の預かり		51件
	③ 保育施設への送迎とその後の預かり		41件
	④ 保護者の外出の時の預かり		28件
	⑤ 保護者の仕事のための預かり		41件
	⑥ 他の子ども学校行事の場合の預かり		6件
	⑦ 児童デイサービスへの送迎とその後の預かり		15件
	合 計		213件

・平成25年度研修会、交流会回数と内容

	回 数	参加人数	内 容
研修会	2回	48名	子どもの発達と子どもの世話、家庭内事故 応急処置、子どものコミュニケーション等、
交流会	6回	298名	3B体操、親子でクッキング
講演会	1回	98名	障害のある子どもとのコミュニケーション

今年度末で227名の方が会員登録をし、宇多津でも新都市の方の子育て支援ニーズが急増している。今後も引き続き、預かり時の事故防止等の講習会を充実させて行く予定である。

(2) 介護保険事業(ホームヘルパー)の充実

① 訪問介護事業の充実

今年度は収入で20%の減、利用者の延べ人数で11%の減となっている。

介護保険制度に適應しない部分を補うための軽度生活援助事業についても

訪問介護事業と連動している部分が大きいため減額となっている。今後も、一層のサービスの向上と利用者の確保を図り、更なる収支の改善を図ってきたい。

(単位：千円・人数)

年 度	訪問介護事業収入	前年比	延べ人数	軽度生活支援事業収入
平成 21 年度	10,164	24.7%	276	507
平成 22 年度	10,991	8.1%	358	1,122
平成 23 年度	11,571	5.3%	402	949
平成 24 年度	12,134	4.9%	360	923
平成 25 年度	9,711	▲20.0%	322	712

② 居宅介護支援事業の充実

居宅介護支援事業(ケアマネージャー)の利用者及び事業収入の推移は次のとおりである。延人数は、12.9%の増加であり、収入としては僅かであるが増となっている。原因としては、延人数の増加の割には、介護予防の比率が少し上がったため、収入が伸び悩んでいる。今後もサービスの向上に努め、収支の改善を図っていく。

(単位：千円・人数)

年 度	事業収入	前年比	対象者数(延人)
平成 21 年度	5,039	6.0%	530
平成 22 年度	4,471	▲12.7%	578
平成 23 年度	4,818	7.8%	585
平成 24 年度	5,973	24.0%	692
平成 25 年度	6,014	0.7%	781

(3) 障害者自立支援事業の充実

① 障害者福祉サービスの充実

障害者自立支援法の完全実施に伴い、在宅の障害者に対するサービスが拡充されたことや住民に周知されると共にサービスの利用も増加傾向にある。今年度は同行援護サービスを実施した。又、難病患者等が居宅介護に一元化された。各年度のサービスごとの収入の推移は次のとおりである。

(単位：千円)

年 度	居宅介護	移動支援	同行援護	難病患者等	計
-----	------	------	------	-------	---

平成 21 年度	1,694	562	0	0	2,256
平成 22 年度	1,942	393	0	0	2,335
平成 23 年度	2,478	209	0	18	2,705
平成 24 年度	2,403	525	0	207	3,135
平成 25 年度	2,467	880	39		3,386

(4) ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会への参加及び協力

事務局として、毎月の定例会、総会及び講演会等に参加しボランティア活動を推進した。

平成 25 年 5 月 26 日(日) 防災講演会(新たな地震・津波被害想定報告会)
80 人

平成 26 年 2 月 23 日(日) 防災研修会(南海トラフ巨大地震に備える災害に強い地域作りに向けて) 80 人

加入団体は、26 団体となっている。

② 福祉・ボランティア体験の推進

福祉・ボランティア体験としてうたづっこふくしセミナーの開催、ボランティア体験の実施、福祉体験学習、ボランティア銀行の運営を次のとおり実施した。

□ うたづっこふくしセミナー

	日 時	場 所	講 演 内 容	参 加 人 数
第 9 回	7 / 28	保健センター	中学生位までの児童・生徒を対象とした福祉体験セミナー	約 300 名

□ 夏休み中学生ボランティア体験学習

16 の行事が延べ 40 日間行われ、約 432 人がボランティアとして参加した。昨年と比べ行事数は増えたものの参加人数は 163 人の減となっている。町や社協事業以外にも各種団体のボランティアにも参加している。今後も学校と連携を取りながらボランティア活動を推進していく。

	日 時	場 所	学 習 内 容	参加人数

1	7 / 2 1 他 2 回	JR 駅前清掃	駅前清掃ボランティア体験	2 2 3 名
2	7 / 2 4 他 4 回	福祉センター	老人給食配達ボランティア体験	7 名
3	7 / 2 7 他 1 回	さくら	高齢者・児童との交流体験	7 名
4	7 / 3 0	サポートセンター	はぐはぐランド宇多津での乳幼児との交流体験	1 7 名
5	7 / 2 5	NPO メロディー	障がい児との宿題教室	2 名
6	7 / 2 2 他 4 回	北小美術室	高齢者のために絵手紙づくり	3 5 名
7	7 / 2 4 他 1 回	ユープラザ他	夏休み宿題お助け隊	1 0 名
8	7 / 2 2 他 5 回	宇夫階神社他	うたづ寺子屋ボランティア	2 9 名
9	7 / 2 8	保健センター	うたづっこふくしセミナー	2 8 名
1 0	8 / 1 8	社会福祉協議会	日曜サロンの手伝い	8 名
1 1	8 / 2 3	保健センター	親子クッキングの手伝い	4 名
1 2	8 / 2 9	ユープラザ	ピッコロショー腹話術の手伝い	8 名
1 3	8 / 9	NPO あいあい	夏祭り手伝い高齢者との交流体験	3 名
1 4	8 / 1 6	ドリームパラダイス	こどもとのうどん作り体験	7 名
1 5	7 / 22～ 8 / 30	中学校	校内プランタンの水やり	3 3 名
1 6	8 / 7 他 1 回	やすらぎプラザ	みんなのサロンともとも 高齢者、乳幼児と交流	1 1 名

延べ：40日

延べ：432名

ボランティア銀行の運営

ボランティア銀行の預金額は、昨年の 633,764 ハートから 862,128 ハートへ大幅に増加しており、小・中学生のボランティア活動の輪が広がってきている。今年度は、預金額の内 300,000 円の払い戻しを行います。

学校名	預金額(ハート)	払い戻し額(円)
宇多津小学校	243,685	85,000
宇多津北小学校	411,643	143,000
宇多津中学校	206,800	72,000
合 計	862,128	300,000

残額については、翌年度以降の積立としている。

③ 災害ボランティアセンターの推進

防災講演会と防災研修会を開催した。

詳細は次のとおりである。

	日 時	場 所	講 演 内 容	参加人数
第 1 回	5 / 26	保健センター	「新たな地震・津波被害想定 報告会」 宇多津町の防災計画、体制について	80名
第 2 回	2 / 23	保健センター	防災研修会 「南海トラフ巨大地震に備える災害 に強い地域作りに向けて」 防災カードゲーム・クロスロードを通 じて南海トラフ巨大地震に備える	80名

(5) 福祉団体等活動協力と連携

① 民生児童委員協議会との連携

社会福祉協議会の運営において、民生児童委員との連携・協働は重要であり、相談事業をはじめとして、高齢者・一人暮らし老人の情報の共有、救急医療情報キットの配布、老人給食サービスの配食、高齢者見舞金配布事業、共同募金活動、生活援護資金貸付業務等において協力を得て事業を実施した。事業ごとの実績については、他の項目で記載した。

② 老人クラブ・身体障害者協会への参加協力

老人クラブ・身体障害者協会の事務局として、総会・定例会、各種行事への協力及び文書管理を行った。

③福祉団体への援助

ボランティア連絡協議会加盟の団体へ各種補助金の情報提供等行った。

(6) 法人運営の強化

① 自主財源の確保

社協会員の増加と香典返し等寄付金の使途の明確化を行う中で自主財源の確保に努めた。年度ごとの状況は次のとおりである。

(会員数の推移)

年 度	社協役員	団体会員	個人会員	合計	会 費 円
平成20年度	25名	442名	30名	497名	132,300
平成21年度	25名	489名	60名	549名	137,800
平成22年度	25名	552名	69名	646名	172,600
平成23年度	25名	630名	193名	848名	221,000
平成24年度	24名	709名	125名	858名	226,000
平成25年度	24名	863名	73名	936名	242,200

(寄付金の推移)

年 度	香典返し		一般寄付		合計金額
	件 数	金 額	件 数	金 額	
平成21年度	30	1,343,000	14	542,281	1,882,281
平成22年度	24	1,145,000	10	146,261	1,291,261
平成23年度	20	720,000	11	135,316	855,316
平成24年度	22	928,000	9	111,000	1,039,000
平成25年度	20	680,000	7	108,000	788,000

会員数は、団体会員を中心に増加しているが、他市町社協と比較して、会員数、会費収入とも少なく、今後も社協運営の体質強化を図る上で中心的に取り組む必要がある。

寄付金については、数年、件数、金額共に減少しており、より一層、広報(社協通信)で使い道を明確にし、社協の事業への住民の理解を広める必要がある。

② 広報・啓発活動（情報誌 社協通信の発行）

社協事業を広く町民に周知する目的で情報誌「社協通信」を毎月発行し町広報と同時に配布した。

③ 各種研修会等への参加

社協職員の資質向上を目指して県社協、県施設協会等の研修会に参加した。特に、日常生活自立支援事業では、精神障害者に対する専門知識も必要になってきており、専門員及び支援員の研修会に参加した。

今後も香川県社会福祉協議会等が開催する研修について、積極的に参加し、専門知識の取得を図っていく。

(7) その他福祉活動への協力

① 共同募金運動への協力

香川県共同募金会宇多津町支会に協力して、街頭募金運動・歳末たすけあいチャリティ即売会等の募金活動に参加し、目標金額4,454,500円に対し4,454,500円を集め、県共同募金会に送金した。本町への配分金は地域福祉推進事業として、3,104,756円であり以下の事業を実施した。災害見舞金は、今年度該当がなかった。

社会福祉協議会事業

番号	事業名	事業内容	配分額
1	ふれあいいきいきサロン事業	ふれあいいきいきサロン活動助成費用（1団体 年間1.2万円～2万円）	330,000円
2	ボランティア活動推進助成事業	ボランティア活動保険料 ボランティア連絡協議会活動費用	361,756円
3	一人暮らし高齢者見舞金配布事業	80歳以上の1人暮らし高齢者のお見舞金費用	390,000円
4	心配ごと相談事業	弁護士相談費用	180,000円
5	花いっぱい町づくり事業	学校等にプランターと花の苗を配布し花いっぱいの町づくりの事業を実施	90,000円
6	ボランティア養成事業	ボランティア活動を行う人材を養成する講座の開催	70,000円

7	日常生活支援事業	自宅にお風呂のない高齢者にお風呂を週3回提供する事業の実施	48,000円
平成25年度共同募金配分合計			1,469,756円

各種団体への補助金

番号	事業名 / 配布先	事業内容	配分額
1	子育て支援推進事業 サポートママ「モコモコ」	核家族化が進む新都市を中心に、地域の人と交流できるイベントを開催し、交流の場を提供する。	200,000円
2	身障者外出支援事業 身体障害者協会	身体障害者の外出を支援することにより、社会参加を促し、会員同士の親睦を深める活動	40,000円
3	母子家庭等支援事業 母子寡婦福祉会(ひまわり会)	ハイキング、クリスマス会等を開催することで、ひとり親家庭の親子の絆を深め、就職活動にも結び付ける	100,000円
4	施設訪問事業 (ゆかいな仲間たち)	町内の福祉施設の訪問し、レクリエーション活動、体験交流活動を行い、高齢者との交流を深める	30,000円
5	高齢者支援事業 (NPO法人あいあい)	カラオケを通して懐かしい音楽を歌うことにより回想法の効果期待する認知症予防を実施	95,000円
6	障がい児支援事業 (NPO法人メロディ)	障がいを持つ困った感を抱える人や保護者や彼らを支えようとする周りの人たちに情報を提供する講演会や勉強会を開催する	150,000円
7	障がい児・軽度発達障がい児支援事業 (親子クラブわくわく)	同世代の子どもと同じことができないう悩みを抱えている家庭に専門医を講師に迎え研修会を開催する	100,000円

8	地域環境整備事業 (たこの会)	誰でも自由な時間に公園の美化活動に取り組むことができるよう意識を高め、住みよい町づくりにつなげる。	100,000 円
9	ゴキブリ団子配布事業 (宇多津町婦人会)	町民にゴキブリ団子を配布することにより、衛生管理に対する意識を高め、地域の衛生環境を整える。	110,000 円
10	地域ふれあいフェア事業 (北小校区会議)	地域を愛する気持ちを培い、地域の目で児童を見守ってもらい、地域の人に学校に対する理解を深めてもらう。	100,000 円
11	子育て支援事業 (あおやま保育園)	衛生管理の基本である手の消毒乾燥、殺菌ができる備品を購入し、感染症などの病気の予防対策に備える。	105,000 円
12	子育て支援事業 (青山幼稚園)	子ども達の想像力や思考力を育てるための読み語り用の絵本や本棚の購入。	104,000 円
13	子育て支援事業 (香川短期大学附属幼稚園)	子ども達の利用できる楽器を購入し、園児に様々な楽器にふれあうことにより、豊かな人間性をはぐくむ取組み。	151,000 円
14	障害者ふれあいサポート事業 (カノンの会)	精神に障害を持つ人の居場所で、野菜作りを行うことで日中活動の機会を増やす。外出支援費用	50,000 円
15	地震対策事業 (平山保育園)	災害発生時において防止策として、飛散防止被膜付きの蛍光灯に取り換える。	100,000 円
16	住みよいまちづくり事業 (ピースのおうち)	普段少ない近所の人たちと交流を図り、子どもの見守り、防犯、防災に役立てる。	100,000 円
平成25年度共同募金配分合計			1,635,000 円